

豊田景気実感調査



Viewing over Our Toyota's Economic Condition

第22号

発行日 2022.6.13

令和4年5月調査結果

“豊田の景況感、全国比総じて慎重な見方で足踏み状態”

	現状判断 D I				先行き判断 D I				水準判断 D I			
	家計	企業	雇用	総合	家計	企業	雇用	総合	家計	企業	雇用	総合
豊田	49.6	40.1	56.6	46.8	49.8	43.0	51.3	47.6	37.5	36.6	46.1	37.9
全国	53.8	50.4	62.9	54.0	52.2	50.6	58.9	52.5	47.7	46.8	57.8	48.5
東海	51.3	—	—	52.8	49.2	—	—	51.0	44.4	—	—	45.1

※全国、東海は内閣府5月調査 【天気図の見方】 D I値 ☀️ 大きな晴れ：60点以上 / ☀️ 晴れ：50～60点未満 / ☁️ 曇：40～50点未満 / 🌧️ 雨：40点未満

令和4年5月 調査結果総括

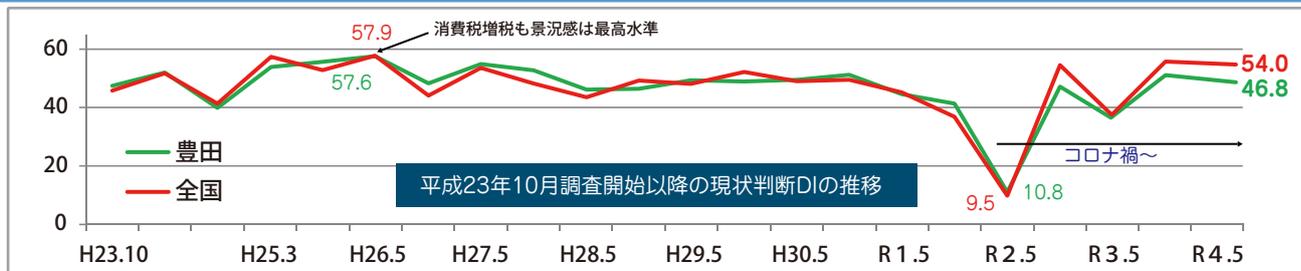
現状の景況感は、コロナの感染状況が落ち着いている中であって、自動車産業が盛んな当地域における半導体不足や原材料高に伴う生産活動への悪影響、様々なモノの値上がりを危惧する声に代表される形で、足踏み状態の様相にあります。

先行きについては、ウクライナ問題、国内物価高、半導体や資材不足、コロナの状況を指摘した上で先行きリスクと見る方が多く、結果として、当地域における先行き不透明感が全国比でも色濃くDIに現れております。

当地域の景況感を左右する「コロナの感染状況」や「地場産業の生産動向」などに引き続き注視していく必要があります。

令和4年5月 特別調査結果

- 所得見直し・お小遣い等は、コロナ禍前の水準には戻っていませんが、伸び悩みつつも改善傾向にある様子が確認されています。但し、日用品等の値上げに伴う実質所得の目減り感は否めないため、今後の消費活動の拡大は急激ではなく、緩やかなものになることが推察されます。
- 自動車産業の集積地として電気自動車の購入意欲について調査した結果、普及状況を見て判断したいとの回答が半数を占め、今後の普及拡大が期待できる結果となっています。一方で、電気自動車の普及のために必要な点について調査したところ、低価格化と充電設備の充実、十分な走行距離の3点が回答の8割を占めており、車が本来有する利便性の電気自動車における確立が強く求められていることが窺えます。
- キャッシュレス決済の利用状況を3年ぶりに調査した結果、利用者が倍増していることが確認されました。キャッシュレス決済の利用場所もコンビニなど多岐に亘り、私たちの生活にキャッシュレス決済が無くてはならないレベルまで浸透する日も近いものと思われます。



1. 調査期間：令和4年5月9日～31日

2. 調査客体：300名（家計/企業/雇用等） うち有効回答：245名 / 有効回答率：81.6%

3. 調査項目：
 ・2～3ヶ月前に比べ現在の景気はどう変化したと感じますか？ ⇒ 現状判断 D I
 ・2～3ヶ月前先の景気は現状に比べどう変化すると予想しますか？ ⇒ 先行き判断 D I
 ・現在の景気的水準をどう判断されますか？ ⇒ 水準判断 D I

4. DI算出方法：

<問い合わせ先>

豊田商工会議所：谷川

0565-32-4594

豊田信用金庫：高橋

0565-36-1384

評価段階	5	4	3	2	1
現状判断	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
水準判断	良い	やや良い	どちらでも	やや悪い	悪い
付与点数	1	0.75	0.5	0.25	0

各判断項目毎に、評価段階別の回答者数構成比（100%比）を出し、その構成比に上記の付与点数を掛け、合計します。それがDI値です。

本調査は、豊田市に居住または勤務されている個人の方で、家計、企業、雇用の動向を敏感にキャッチ出来る方を対象に、身の周りの景気の実感を聞く調査です。内閣府の「景気ウォッチャー調査」（こちらは毎月実施）に準じて、豊田商工会議所と豊田信用金庫とが協働し半年に1回（5月/11月）実施しています。また、家計は小売、飲食、サービス、住宅、企業は製造、非製造業から構成しています。なお、本調査では別に「特別調査」を実施しています。

<調査にご協力頂いた皆さまに心よりお礼申し上げます。>

現状判断

総括

総合DI (豊田) 悪化



●前回は

- 総合：悪化(晴→曇)
家計：悪化(晴→曇)
企業：不変(曇→曇)
雇用：不変(晴→晴)

●全国比

- 総合：不変(劣位→劣位)
家計：不変(劣位→劣位)
企業：不変(劣位→劣位)
雇用：不変(劣位→劣位)

業種別内訳

仕入価格の上昇、来店客伸び悩みにより飲食は景況感が大幅悪化。

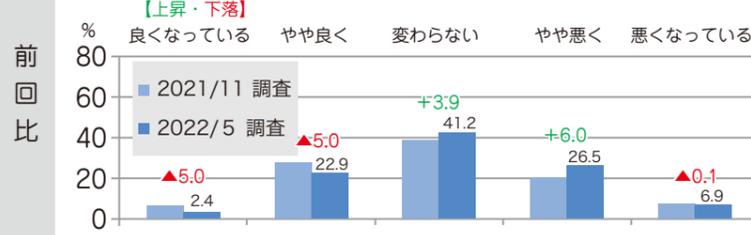


飲食と非製造の全国比劣位が目立つ。小売のみ全国比優位へ転換。



評価段階別内訳

“悪化”傾向の回答へのシフトが見られる。



“やや良くなっている”が際立って全国比少ない。



景気モニター生の声

< + : 回復感あり - : 回復感なし >

※家計動向=家、企業動向=企、雇用関連=雇、と略

- + : 来店客数に変化はないが、高額商品が売れ、客単価が上がっている。
+ : 以前と比べると宿泊客の動きは出てきており、経済活動が少しずつ戻っている様子。
+ : タクシーの利用が増えた。
+ : 前年同期比での新規求人申込件数の増加、有効求人倍率の上昇から判断。
- : 新車の納期が遅い、中古車が高いことにより販売台数の減少が見られる。
- : 不要な外出、無駄なおつきあいによる出費が減りそれに慣れてしまった。
- : 原材料が高騰中であり、今後さらに上昇すると見込まれる。
- : 原材料が高騰中であり、今後さらに上昇すると見込まれる。よって売値の値上げ幅も現段階では決定しにくい状況であり収益性が低下することが予想される。

先行き判断

総合DI (豊田) 悪化



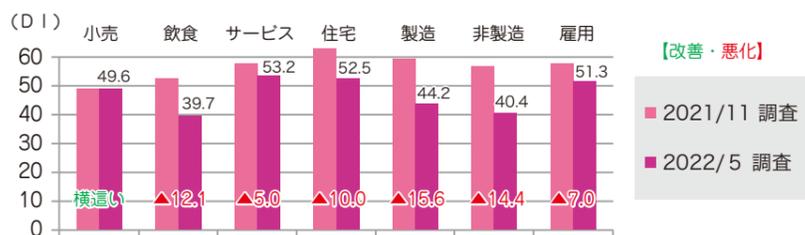
●前回は

- 総合：悪化(晴→曇)
家計：悪化(晴→曇)
企業：悪化(晴→曇)
雇用：不変(晴→晴)

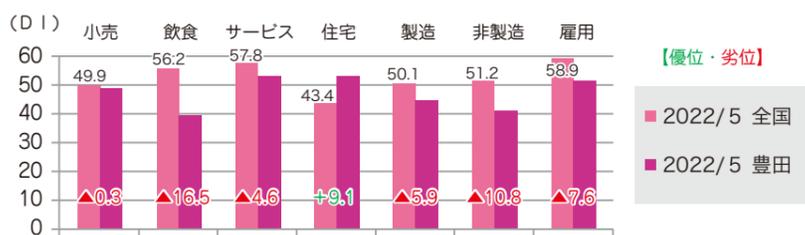
●全国比

- 総合：悪化(優位→劣位)
家計：不変(劣位→劣位)
企業：悪化(優位→劣位)
雇用：悪化(優位→劣位)

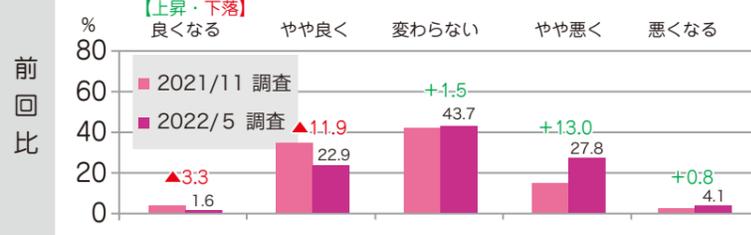
小売を除き先行き見通しは悪化。長引く物資不足が企業動向に影響。



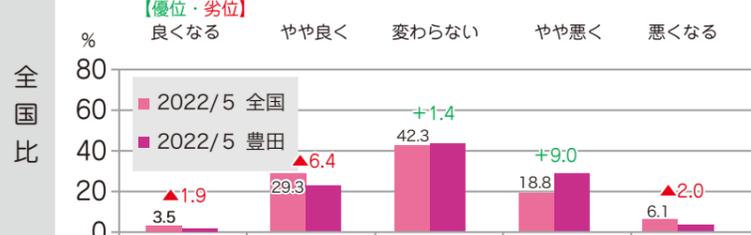
住宅は原材料の高騰はあるものの、一定の需要を見込んでいる様子。



“悪化”傾向の回答へと大きくシフトしている。



全国比で“やや悪化”が多く、先行き慎重な見方。



< + : 回復感あり - : 回復感なし >

※家計動向=家、企業動向=企、雇用関連=雇、と略

- + : コロナとの共存、トヨタ自動車の生産の回復を期待する。
+ : 夏になることで、イベントがたくさん開催される見込み。
+ : 自動車関連の新規品の増産計画が入っているため。
- : 電気代、配送包装コスト、全てが上がってきているので、不安要素はいっぱいです。
- : 緊急事態宣言等解除になっても感染予防で家族での来店は控えていたり、宴会も少ない状態が続いている。
- : ウクライナ情勢や欧米のインフレ、半導体不足や食料・エネルギー不足の影響。
- : 原材料、燃料代の上昇が続き、企業収益の圧迫が進んでいる。
- : 様々な理由で稼働が安定せず、計画通りにいかない。
- : ロシア、コロナ、水不足、物価高。(雇：学校就業担当者)

水準判断

総合DI (豊田) やや良化



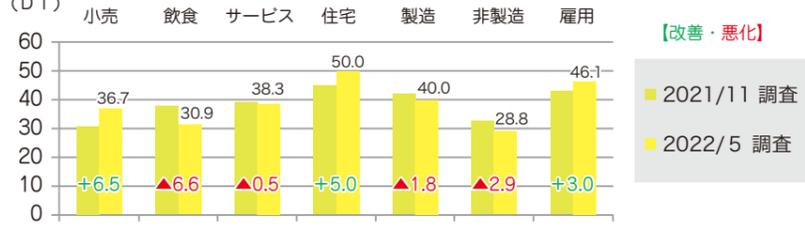
●前回は

- 総合：不変(雨→雨)
家計：不変(雨→雨)
企業：不変(雨→雨)
雇用：不変(曇→曇)

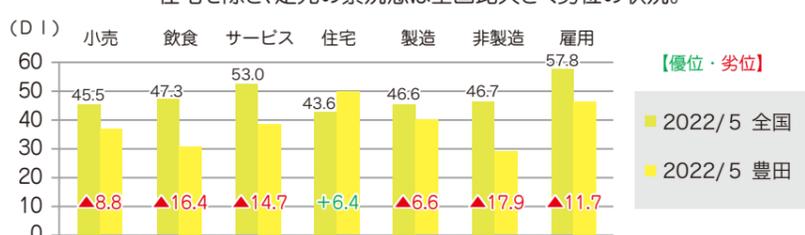
●全国比

- 総合：不変(劣位→劣位)
家計：不変(劣位→劣位)
企業：不変(劣位→劣位)
雇用：不変(劣位→劣位)

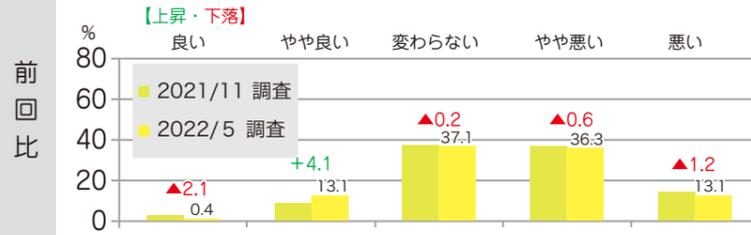
足元の景況感は回復期待が削がれ、引き続き低空飛行の様相。



住宅を除き、足元の景況感は全国比大きく劣位の状況。



“悪い”方向の回答が半数に迫る状況に変わりない。



全国比、足元の景況感は悪い方向の回答が極めて多い。



自由回答：景気モニターからの貴重な声

- 従来通りの商売の仕方では生き残っていけないように感じる。キャッシュレスも便利ではあるが中間マージンの発生と入金遅れから、企業にとってのメリットは非常に少なく感じる。
商工会議所の皆様のおかげもあり豊田市は恵まれた環境だと思います。引き続き新たな取り組みに対して個人事業者が積極的に挑戦できる環境を提供いただきますようお願い致します。
ロシアのウクライナ侵攻による世界的な資源価格、食料品価格の高騰がいつまで続くのか心配される。
豊田市で開催されるラリージャパンをもっと宣伝してほしい。
厳しい時代ですが、官民協力してこの難局を乗り越えていきましょう！

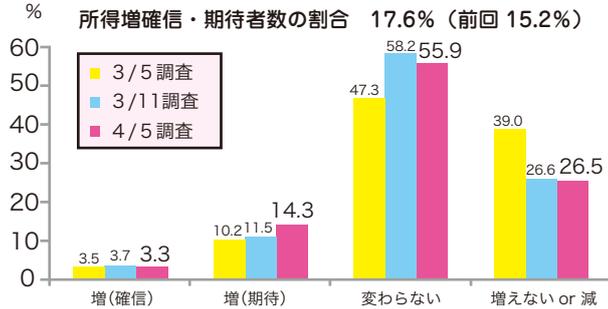
～ 貴重なご意見、ありがとうございました。～

【特別調査】

所得見通し※ 消費意欲の調査

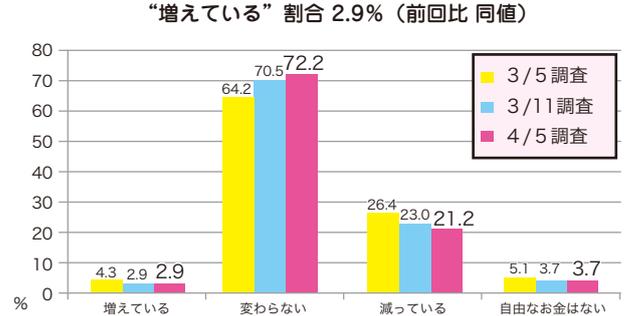
※平成24年から調査を継続しています。

今後、所得は増えていくと思いますか？



所得増への期待感はコロナ鎮静化とともに僅かながらも増加の様相。「変わらない」から「所得増期待」へのシフトが見られます。但し、所得増の確信回答は伸び悩んでおり、コロナ禍に加え、物価高の影響による実質所得の目減り感がマイナス影響を与えている様子が窺えます。

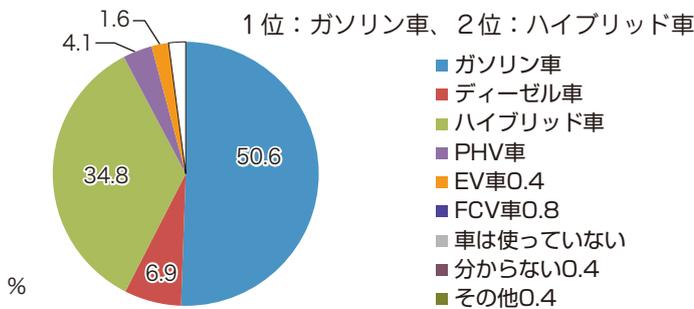
自由に使えるお金【小遣い等】は増えましたか？



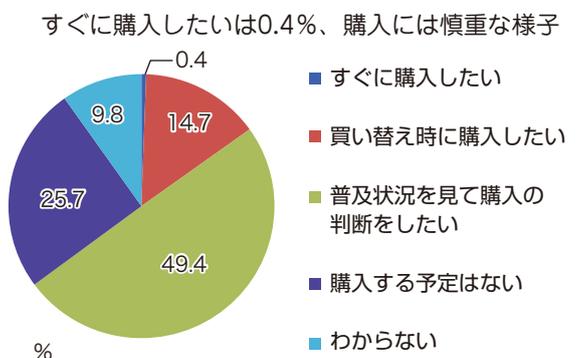
「お小遣い」は増えも減りもしていないとの回答が過半を占める。「変わらない」との回答が圧倒的に多いことから、今後の消費拡大はあまり期待できないことが推察される結果となっています。「減っている」との回答が減少傾向にある点は救いではあります。

電気自動車(EV車)に関して購入意欲などを調査しました。

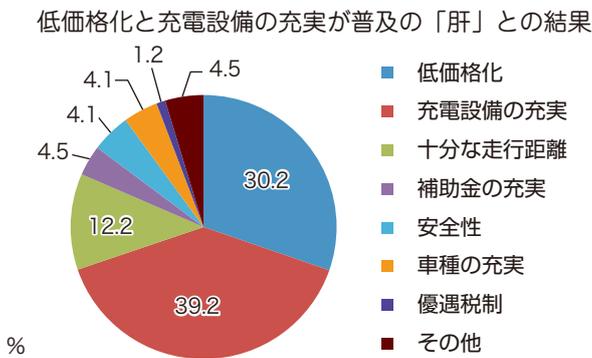
現在、使用している車の種類



EV車の購入意欲



EV車普及のポイントを調査



その他、具体的に寄せられたご意見を紹介します。

- ・ガソリンやハイブリッドと同等の走行距離が必要である。
- ・充電5分、300キロ走行であれば購入検討のテーブルに上がる。
- ・給油と同等の充電インフラ設備がないと購入しない。
- ・充電時間が長すぎる印象。
- ・リチウムイオンバッテリーに対する不安感がある。
- ・利便性は下がる、価格は上がるのが現状でEV車の旨味はない。

普及状況を見て購入の判断をしたいと回答された方が半数を占める中であって、EV車の性能は勿論のこと、充電設備の充実が今後の大きな課題であることが指摘されています。車という大きな買い物にあたっては、車そのものの性能や価値を重要視する目線に加え、車が元来有する利便性の確保が、特にEV車では注目されている様子が窺えます。

キャッシュレス決済の利用状況を3年ぶりに調査しました。

利用状況の過去調査との比較

【参考】政府は2025年までに民間の消費に占めるキャッシュレス決済の割合を4割にする目標を掲げています。

4年前と比べ、2人に1人が利用を始めていることがわかりました。



調査の結果、キャッシュレス決済を日常的に利用されている方は3年前に比べ約倍増しており、3年前に「今後、利用したい」と回答された層が、利用を始めていることが推察されます。キャッシュレス決済の利用場所については、コンビニや飲食店が多く、薬局や自動販売機という回答もあった他、利用用途については、スポーツ施設の利用代や現金をもちや持ち歩かないと回答された方もいらっしゃいました。キャッシュレス決済は私たちの生活に相当浸透してきており、今後もその利便性から利用は進んでいくものと思われま。

利用場所の調査

- 1位：コンビニ
- 2位：飲食店
- 3位：交通機関（電車・バス・タクシー）

利用用途の調査

- 1位：日用品の購入
- 2位：食事代の支払い
- 3位：交通機関での支払い